

場所もある。嵯峨住沢出合直前になって、ようやく1mの小滝が出てきた。嵯峨住沢出合を過ぎると、沢はぐっと貧弱になる。滝もないまま終わるかと思ったら、突然4mの滝。水量がないので、楽にシャワーで直登するが、全体に平凡な中で一つのアクセントとなってくれた。

滝の上はもう完全に源頭の装い。やがて水も潤れる。どこで終了にしようかと迷ったが、結局次の二俣まで遡行して終了とした。(記)

[タイム] 出合(8:10)→樽見沢出合(8:20)→嵯峨住沢出合(8:30)→遡行終了(8:50)

嵯峨住沢 1990年9月23日
L

摺白沢の遡行終了後、沢ぞいにつけられた踏跡を利用して嵯峨住沢出合まで戻る。9:05いよいよ嵯峨住沢の遡行開始。この沢は出合から全く平凡。滝がないだけでなく、ナメも出てこないままで、沢の規模だけがどんどん小さくなってゆく。20分遡ると、沢はもう細いミゾにすぎなくなってしまった。遡行終了9:25。

(記

[タイム] 出合(9:05)→遡行終了(9:25)

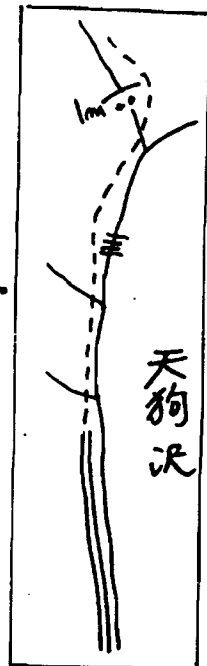
樽見沢 1990年9月23日
L

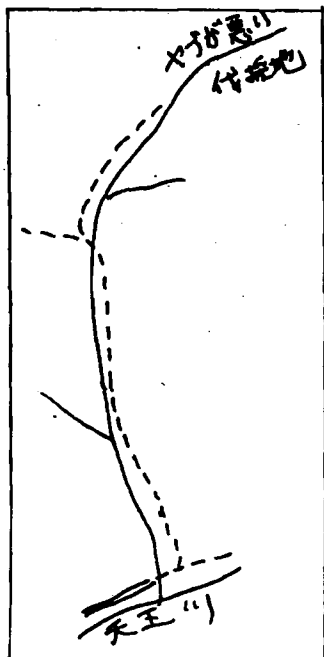
9:50遡行開始。樽見沢は出合こそ貧弱だが、ちょっと入ると沢幅が広がる。しかし、沢そのものは平凡である。出てくるのはナメが3カ所。うち1カ所は1mの小滝を間にはさんでいる。そのほかは特に特徴のあるものもないままに源頭に達してしまった。10:10二俣に出た所で遡行終了とする。(記)

[タイム] 出合(9:50)→遡行終了(10:10)

天狗沢 1990年9月23日
L

天狗沢ぞいでは、現在伐採作業が進行している。その伐採作





業の最先端の場所から沢に入り、10:40遡行開始。きれいな水が流れているが、沢そのものは平凡である。伐採地より下流部では何カ所かで見られたナメも、1カ所申し訳程度に出てきただけ。滝も終了間際になって、1mの小さなものが見られたただけであった。11:20遡行終了とする。(記)

[タイム] 出合(10:40)→遡行終了(11:20)

天王川(梓川)左支沢

1990年10月14日

L

林道終点に車を止め、沢ぞいに続く山仕事道を利用しながら、進む。沢には何もない。地図上の道は、途中から嶺を越え登っているが、実際には沢にそって奥まで続いている。道が不明瞭になってからは沢の中を進むが、トゲトゲのヤブがひどくて進めない。源頭の樹林帯も間近となった所で、遡行終了とする。

(記)

[タイム] 林道終点(9:35)→遡行終了(10:55)

砂川左俣

1990年9月16日

L

中和田集落から川ぞいの林道を進み、砂防ダム手前の橋のたもとに車をデポする。川ぞいの林道をなおも進み、砂防ダムの所から入渓する。今回は豪士山に登る手段としての沢登りなので、最短の左俣をつめる。

